

# 平成27年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立野々市明倫高等学校 No.1

| 重点目標  | 具体的取組  | 達成度判断基準   | 集計結果  | 分析(成果と課題)及び後期の取組(改善策等)  |
|---|--|---|---|---|
| 1 生徒に学力を身につけさせるため、ICT機器の活用や教員間の学び合いを通して授業内容の充実に努めるとともに、家庭学習と授業内容の連動を図り、学習習慣の確立と論理的思考力の育成に努める。 | ① ICT機器を積極的に利活用し、工夫された授業を展開している。   | ICT機器を<br>A よく使う(週5回以上)<br>B 時々使う(週1～2回程度)<br>C 使ったことがある(月1回程度)<br>D 使ったことがない(0回)           | 後期学校評価(教職員)<br>ICT機器を<br>A よく使う(週5回以上) 38.0%<br>B 時々使う(週1～2回程度) 28.0%<br>C 使ったことがある(月1回程度) 28.0%<br>D 使ったことがない(0回) 4.0%<br>A+B 前期66.0%→後期66.0%  | 日常的にプロジェクターを利活用した授業が行われている。「使ったことがない」の回答が11.3%→4.0%に激減し、教員の意識の変化も見られる。今年度途中からタブレットが導入され、一部の授業で使われるようになった。タブレットで「何ができるか」といった模索段階ではあるが、今後さらに効果的な実践方法が開発されると思われる。  |
|   |  | ICT機器の活用により主体的に取り組み、学習効果が高まると感じている生徒が、<br>A 90%以上<br>B 80%以上<br>C 70%以上<br>D 70%未満          | 後期学校評価(生徒)<br>ICT機器の活用により主体的に取り組み、学習効果が高まると感じている生徒が、<br>A 90%以上 29.9%<br>B 80%以上 46.3%<br>C 70%以上 16.9%<br>D 70%未満 4.1%<br>A+B 前期73.1%→後期76.2%  | 昨年度同期と比較しても6.7ポイント上昇している。教師側の機器操作に慣れてきたことや効果的な利活用、生徒側の授業への積極性が要因と思われる。今後、タブレット利活用の活性化によって学習効果がさらに高まることを期待したい。   |
|   | ② 授業の中で生徒が自分の考えを述べる場面、論理的思考力を育成する場面、教師と生徒とのやりとりの場面を設定している。   | 日々の授業において、考える必要のある質問をし、生徒が発表(発言)する場面<br>A 多く設定している<br>B 時々設定している<br>C あまり設定しない<br>D 全く設定しない | 後期学校評価(教職員)<br>日々の授業において、考える必要のある質問をし、生徒が発表(発言)する場面<br>A 多く設定している 44.0%<br>B 時々設定している 48.0%<br>C あまり設定しない 6.0%<br>D 全く設定しない 4.0%<br>A+B 前期86.8%→後期92.0%   | 思考力を育成する場面や生徒が発言(発表)したり教師とのやりとりの場面が増えている。思考の深まりを教師・生徒ともに感じられる授業の検証方法について考えていくことが必要である。  |
|   | ③ 家庭学習と授業内容の連動を図り、学習習慣の確立と学習内容の質の向上をめざす。   | 1,2年生で平日の平均家庭学習時間が120分以上である生徒が、<br>A 80%以上<br>B 70%以上<br>C 60%以上<br>D 60%未満                 | 【1年】 前期45.5% D評価 → 後期38.7% D評価<br>【2年】 前期68.4% C評価 → 後期65.9% C評価  | 昨年度は前期から後期にかけて1年は約3ポイント、2年は約1ポイント上昇したが、今年度は1,2年ともに下降しており、特に1年生が6.8ポイント下降しているのが、気になる。家庭学習に取り組む仕掛けづくり(予習復習の徹底、課題の設定、小テストの準備など)が適切か、また学習時間の記録を通して日々の生活の振り返りをきちんとさせているか、再考する必要がある。  |
|   | ③ 朝学習の充実に、学びにむかう主体性を身につけ、学びの質を高める。   | 朝学習で学力や教養が身についたと考える生徒の割合が<br>A 80%以上<br>B 70%以上<br>C 60%以上<br>D 60%未満                       | 後期学校評価(生徒)<br>【3年】<br>①よくあてはまる 31.5%<br>②ややあてはまる 49.6%<br>①+② 81.1% A評価<br>【2年】<br>①よくあてはまる 17.3%<br>②ややあてはまる 57.2%<br>①+② 74.5% B評価<br>【1年】<br>①よくあてはまる 19.1%<br>②ややあてはまる 49.8%<br>①+② 68.9% C評価 | 【3年】各教科が生徒の実態と目標に応じた適切・適量の課題を課している。また、副担任の適切な指導・助言により集中して学習することができている。最終学年ということもあり、これまで学んできた基礎的な知識・原理が授業や補習の演習に活かせる場面が増えてきた結果、成果を実感できたと思われる。<br>【2年】朝学習は定着してきている。小テストに対する再テストや補充のための学習会も効果的に実施されており、弱点を補強する機会となっていると考える。<br>【1年】2学期は11月のビブリオバトル実施に向け、朝学習は読書指導に重点を置いた。生徒は各自で読みたい本を持参し、主体的に読書に取り組み、読書の習慣づけになったと思われる。しかし、朝学習で学力が身に付くと考える生徒の割合が低いことから、今後は家庭学習と連動した小テストなども取り入れていくことも検討する必要がある。 |
| 学校関係者評価委員会の評価   | <ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな教科でICT機器の利用がなされている。</li> <li>わかりやすい授業は生徒が予習・復習をしなくなることもあるので、予習が必要となる脳を活性化するような授業となるよう工夫してほしい。</li> <li>家庭学習時間が少ない理由について把握する必要がある。</li> </ul> |   |   |   |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策   | <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器の活用とともに、ディスカッションの機会を増やしアクティブ・ラーニングや反転学習を推進する。</li> <li>学習時間調査をもとに面談の時間を確保し、学習サイクルの指導に努める。</li> </ul>   |   |   |   |

| 重点目標   | 具体的取組  | 達成度判断基準   | 集計結果  | 分析(成果と課題)及び後期の取組(改善策等)  |
|--|--|---|---|---|
| 2 個別面談や学習活動を通したきめ細かな指導により、生徒一人ひとりの可能性を引き出し、早期に高い進路目標を持たせ、進路実現に向けての意欲と主体性を育む。 | ① 時期に応じたクラス全体の指導や個人面談などをきめ細かにを行い、生徒の進路意識を高め早期に目標を設定させる。設定した目標実現のため、自ら学習時間を確保するよう意識づけを行う。 | (1年)進路指導により、目標とする大学が<br>(2年)進路指導により、志望校が<br>A 決まっている<br>B ほぼ決まっている<br>C あまり決まっていない<br>D 決まっていない | (1年)A22.7% B28.9% C38.3% D9.4%<br>(2年)A20.7% B48.1% C17.8% D12.4% | A+B (1年)51.6% (2年)68.8%<br>目標値(70%)に対して1年は達しておらず、2年はほぼ達している。<br>1年から目標大学を持たせることは難しいが、高い目標を持たせるために、2年次からのエクシードクラスを念頭に置いて、上位者を中心に働きかけていきたい。 |
|  | ② 進路指導課から各学年、教科に方針を発信することで、教員全体の相互理解を深め、生徒に高みを目指した1ランク上の志望をもたせ、学力の向上と進路実現を図る。            | 1,2年生の学力試験(11月)で各教科の全国偏差値が<br>A 平均偏差値50以上<br>B 平均偏差値48以上<br>C 平均偏差値45以上<br>D 平均偏差値45未満          | (1年)国語 C46.1 数学 B49.7 英語 C46.3<br>(2年)国語 A50.9 数学 B49.5 英語 B48.0  | 1年は国語と英語で平均偏差値48を下回った。学年一丸となって補習、小テスト等で回復を図っている。<br>2年は3教科とも目標ラインをクリアしている。  |
|  |  | 1,2年生の英数国の学力試験(11月)で全国偏差値54以上の生徒が<br>A 55人以上<br>B 45人以上<br>C 40人以上<br>D 40人未満                   | (1年) D29人<br>(2年)文系52名 理系9名 文+理 A61名                              | 1年は全国偏差値54以上の生徒が29名と目標値を下回っている。現在上位者育成に向けて補習、添削等の指導を実施中である。<br>2年は文系と理系で数に偏りがあるものの、合計数は目標値に達している。   |
|  |  | 国公立大学合格者数が<br>A 70人以上<br>B 65人以上<br>C 55人以上<br>D 55人未満  | 国公立合格者 39名  | D 生徒は後期までがんばったが、結果は過年度数を下回った。結果、例年になく浪人生の数が増えたので、来年度に結果を出して欲しい。   |
|  |  | 難関私立大学合格者数が<br>A 20人以上<br>B 15人以上<br>C 10人以上<br>D 10人未満   | 青山学院大学1 関西学院大学1 関西大学1 立命館大学4(うち過年度生1)合計7                          | D 文Ⅱクラスから、難関私立大学を目指す生徒を増やし、各大学に沿った問題演習を指示する。  |
| 学校関係者評価委員会の評価  | ・試験ごとに偏差値が上がるよう演習や生徒同士の教え合いの時間を確保し脳の活性化に努めることが肝要   |   |   |   |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策  | ・アクティブ・ラーニングや反転学習を推進するとともに高みを目指す進路指導を推進する。   |   |   |   |

| 重点目標  | 具体的取組  | 達成度判断基準   | 集計結果   | 分析(成果と課題)及び後期の取組(改善策等)   |
|---|--|---|--|--|
| 3 部活動や生徒会活動の活性化に努め、チャレンジ精神の涵養を図るとともに、喜びや感動を共有できる教育活動を展開し、明るく活力ある学校づくりを推進する。 | ① 保護者に「朝の挨拶運動」を始めとしたPTA活動等に積極的に参加してもらい、教育活動をバックアップしてもらおう。  | 学校行事やPTA活動で保護者が来校した回数の平均が<br>A 5回以上<br>B 4回以上<br>C 3回以上<br>D 2回以下 | 本年度4月より学校行事やPTA活動で来校した回数が<br>①10回以上1.5% ②8回以上1.9% ③6回以上7.6%<br>④4回以上35.1% ⑤2回以上51.9% ⑥無答2.3%<br><br>平均 前期2.4回 D評価→ 後期(通年)3.8回 C評価<br>A+B 通年46.1% | 前期の「PTA総会」では、2年の講演会を工夫し、昨年より参加者数が増加したが、1年・3年の参加者数は減少した。後期の「文化祭」、「学校公開」等では広報活動に努めた結果、昨年度よりやや参加者が増えた。次年度は、学校行事やPTA活動の魅力アピールする効果的な広報活動に努め、保護者の関心を高め来校数を増やしたい。   |
|   | ② 本校の教育活動、本校のよさ生徒の活動の成果をホームページ上に積極的に掲載する。  | ホームページ上の更新回数が昨年度の<br>A 2.0倍以上<br>B 1.5倍以上<br>C 1.0倍以上<br>D 1.0倍未満 | ホームページの更新回数が昨年度と比べて<br>昨年度22回→本年度24回 1.09倍 C評価   | これまでのデータ量が増え、最新の情報に更新されていないページが見受けられる。次年度は、各課・学年に該当ページを周知し、更新手続きを積極的にしてもらうことでホームページの更新に努めたい。   |
|   | ③ 部活動の加入をうながし、学校全体の活性化を図る。生徒のチャレンジ精神と部活動の実力向上を目指す。   | 1,2年生の部活動の加入率が<br>A 90%以上<br>B 85%以上<br>C 83%以上<br>D 83%未満        | 入場者数<br>4月当初の1. 2年生の部活動加入率は94%でA判定であった。<br>10月上旬の調査では、約93%であり1ポイントは下げたが、多くの生徒が活発に課外活動に参加しているといえる。  | 多くの生徒がより充実した活動が得られるように、また成果が得られるように学校としての活動時間の確保や設備の充実など創意工夫が必要である。  |
|   | ④ 明倫祭の外部公開を継続し、校内開催と校外開催についての内容を検討し、本校の外部に対する情報発信力を高める。  | 1日目の来場者数が<br>A 900名以上<br>B 700名以上<br>C 500名以上<br>D 400名未満         | 1日目の入場者数は、735名でB判定。<br>H27年 735名<br>H26年 659名<br>H25年 450名<br>H24年 560名  | 1日目は日曜日開催ということもあり、多くの入場者を見込んでいたが、天候に恵まれず、思ったよりも数値は伸びなかった。来年度の開催曜日によっては下方修正も必要である。  |
|   | ⑤ 本の読み聞かせ、本の紹介カード展示などの図書委員会活動を地域と連携することでチャレンジ精神の涵養を図る。   | 地域と連携した図書委員会活動の回数が<br>A 年間6回以上<br>B 年間5回<br>C 年間4回<br>D 年間4回未満    | 地域と連携した図書委員会活動の回数<br>年間10回 A評価   | 「絵本の読み聞かせ」は今年度3回、7月御園小学校放課後子ども教室の児童、8月エンジェル保育園の園児、12月ほりうち保育園の園児に行った。<br>この活動に先立ち野々市市立図書館が主催する「図書館ボランティア講座」に1回参加した。<br>生徒が委員会活動で作成したPOPをビブリオバトルのポスターとともに市立図書館で11月26日～12月24日まで展示してもらった。また県立図書館や市立図書館の学校図書館支援サービスを5回利用し、特集企画の展示に役立てた。 |
| 学校関係者評価委員会の評価   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の加入状況が良い。時間を有効に使いさらに活性化してほしい。</li> <li>・学習時間が少ない原因の1つにスマホやLINEの使用が影響しているのではないかな。</li> </ul>           |   |  |  |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマホの使用については、保護者と連携し家庭のルールの徹底やネット社会に適切に対応できるよう指導する。</li> <li>・部活動と家庭学習を含めバランスのよい高校生活を送るよう指導する。</li> </ul> |   |  |  |

| 重点目標  | 具体的取組   | 達成度判断基準  | 集計結果  | 分析(成果と課題)及び後期の取組(改善策等)  |
|---|---|--|---|---|
| 4 節度ある生活習慣の確立に努め、自ら挨拶し、読書に親しみ、ボランティア活動等にも積極的に参加する豊かな人材の育成を図る。 | ① 登校指導や生活指導などを通して、自ら身なりを正すことができ、挨拶がしっかりできる人間の育成を図る。   | 生徒同士や教職員、外部からの来客に対し、挨拶を自分からすすんでしっかりとできた生徒が<br>A 90%以上<br>B 80%以上<br>C 70%以上<br>D 70%未満             | すすんで大きな声でできた 65% D判定。   | 全体として、挨拶を自分から進んでしているとした生徒は全学年を通じて70%を割っている。おとなしく、控えめな生徒が多いことから『すすんで』『大きな声』という点で数字を落としている可能性がある。職員からの声掛けや、その場の一声が必要である。  |
|   | ② 交通安全教室や街頭指導を通して、自転車の安全運転の励行を図る。   | 交通ルール(自転車の二人乗りや携帯電話を操作しながら等の運転をしない)を遵守している生徒が<br>A 90%以上<br>B 80%以上<br>C 70%以上                     | 交通ルールを順守している<br>①よくあてはまる 74.0%(67.0%)<br>②ややあてはまる 22.1%(28.9%)<br>①+② 96.1% A判定。  | 県警からの自転車違反の指導数も減っている。また、自転車事故報告数も減っている。しかし、一部の生徒では、イヤホンや携帯の使用などを行っていると考えられることから啓発指導を行う必要がある。  |
|   | ③ 生徒の良好な人間関係作りを支援する。情報の収集・共有を密に行い、困難を抱えている生徒に対して早期に対応・支援する。   | 生徒の変化に対して<br>A 素早く対処し、解決に至った<br>B 素早く察知し、対応することができた<br>C 素早い対処ができず、解決が遅れた<br>D 発見・対処が遅れた           | 後期学校評価(教職員)<br>いじめの早期発見、対処について<br>A 43.4%<br>B 52.8%<br>心的支援を必要とする生徒に対する連携について<br>A 49.1%<br>B 45.3%                              | いずれもAB合わせて90%を越えており、情報の共有等、ほぼ組織的な対応を取れているといえる。しかし現状として欠席の多い生徒が増加しており、今後一層、学年団及び全校的な連携を取って個々の生徒に対応していく必要がある。   |
|   | ④ 清掃・ゴミ分別・節電・節水等の環境にやさしい行動を意識して取り組める生徒の育成を図る。   | 学校版環境ISO意識調査でゴミの分別を心がけ実践している生徒が<br>A 80%以上<br>B 70%以上<br>C 60%以上<br>D 60%未満                        | 11月下旬の第1回学校版環境ISO意識調査結果<br>①ゴミの分別をいつも実践 56%<br>(1年56% 2年56% 3年57%)<br>②だいたい心がけて実践 38%<br>(1年46% 2年34% 3年35%)<br>①と②の合計で98% 達成基準 A | 全校生徒に標語や川柳を募集することで生徒のゴミ分別意識を高める取組をしたが、①いつもゴミ分別を実践している生徒の割合が第1回の結果よりも1年生の6%減少し、3年生では4%増加している。1年生の意識の低下が問題ではあるが、ゴミ分別をテーマにした川柳の応募数では、各クラス約3分の1程度の応募者があり、ゴミ分別の意識は高まりつつあると考えられる。今後も、環境ISOの意識調査と川柳募集を継続することで、日常生活の中で環境にやさしい行動ができる生徒の育成に努めていきたい。 |
|   | ⑤ 図書館報、図書便りによる図書案内や各学年団と連携した朝読書、ビブリオバトル、一斉読書などの読書指導によって、読書に親しむ習慣を身に付けさせる。   | 生徒一人あたりの本校図書館の年平均貸出冊数が<br>A 6.0冊以上←7.0冊以上<br>B 5.0冊以上←6.0冊以上<br>C 4.0冊以上←5.0冊以上<br>D 4.0冊未満←5.0冊未満 | 生徒一人あたりの本校図書館の年平均貸出冊数が<br>5.2冊(2月8日現在) B評価  | 図書選定実習や購入図書の際に図書館を利用する生徒へのリサーチや企画展示を行うなどの工夫をした結果、昨年度の3.9冊から微増した。しかし、まだまだ改善していかなければならない。ただビブリオバトルの効果からか1年生で読書する習慣が身に付いてきていると思っている生徒の割合が高くなっており、この層の定着を図っていきたい。   |
|   | ⑥ 学校内外のボランティア活動への自発的な参加を促す。   | ボランティア活動に、<br>A 自発的に複数回参加した<br>B 自発的に参加した<br>C 参加した<br>D 参加しなかった                                   | ① 自発的に複数回参加した 3.6%(3.9%)<br>② 自発的に参加した 13.1%(13.2%)<br>③ 参加した 36.0%(37.1%)<br>④ 参加しなかった 54.6%(45.7%)                              | 前期調査ではボランティア活動に自発的に参加した生徒は17.1%であった。昨年度は14%弱であったことを考えると若干の上昇である。しかし、ボランティア実績と照らすと、自発的参加者は40%以上になるはずであるが、生徒のボランティア参加したという意識が薄いようである。   |
| 学校関係者評価委員会の評価   | ・生徒はおとなしいイメージがあったが、野々市の市などの地域活動で明るく元気な面を多く見せてくれた。今後も野々市市唯一の県立高校として野々市市の行事に積極的に参加して欲しい。<br>・地元の中学校に高校生活全般の説明をしてもらっていることなど含め今後も中高の連携を強化してほしい。 |  |   |   |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策                                   | ・地域行事への参加やボランティア活動を推進し、地域から愛され、活力ある学校づくりの推進と社会にとって有為な人材の育成を図る。<br>・中学校との部活動連携や高校説明会などを通して積極的に中学校との連携を図っていく。                                 |  |   |   |